

テーマ

キノコがガラスビーズで出来る

適用分野

キノコ栽培、人口栽培の技術、環境保全型キノコ栽培、クリーンキノコ栽培



研究名称

キノコ分化誘導機構の解明

氏名所属

田中修 特別客員教授
学長直属

内容

●特徴

キノコ（椎茸、エリンギ、エノキタケ、ブナシメジ、ナメコヒラタケ、マイタケ等）のほとんどは栽培工場で作られている。この栽培には木であるおが屑が使われているが、おが屑の消費量が増大して環境破壊につながる。このためおが屑（またはこれに変わるダンボール）を使わないでキノコ栽培をする方法が求められ、本システムのガラスビーズやセラミックボールを用いた方法が注目される。

●研究内容

キノコの栽培には、木屑が必要との認識を改め、ガラスビーズに保水剤のパーミュキュライトを混ぜた栽培方法を提案し、その効果を実証した。本方式はおが屑の不足による環境破壊問題、リサイクルの難しさの問題を完全に解決し、再利用可能な理想的なシステムを提供することができる。

おが屑栽培
森林資源の消失*
不足する心配
産業廃棄物

*（年間消費量：樹齢20年のコナラで2839万本、椎茸の原木をコナラ換算で1725万本、合計4564万本）

ガラスビーズ、セラミックボール栽培
おが屑の問題を完全解決
清浄キノコのイメージ
キノコの好き嫌いなおが屑なし

キーワード

キノコ栽培、おが屑、パーミュキュライト、ガラスビーズ、セラミックボール

連携方法

講演 研修 研究相談 学術調査 コメント 共同研究